

# 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

## 京都建築事務所

〒 604-8083  
京都市中京区三条柳馬場東入中之町10  
代表取締役社長 川下 晃正  
TEL (075) 211-7277  
FAX (075) 211-7270  
<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21  
<http://www.create-k.co.jp>

## クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741  
FAX 075 (693) 6605  
送料何冊でも240円

### 出版記念フォーラム

## 生活困窮者の 医療保障を考える

**日時** 2020年3月20日(金・祝)  
13:10~16:30 (開場12:45)

**会場** 大阪産業創造館  
4階イベントホール  
地下鉄堺筋本町駅から徒歩5分

**基調講演** 炭谷 茂 恩賜財団済生会理事長  
(元厚生省社会・援護局長、元環境事務次官)

「貧困・生活困窮問題の歴史と現代における課題」

**研究報告**：西岡大輔(医師・東京大学大学院)「健康格差と無料  
低額診療の効果～京都保健会の事業利用者を対象としたコホート研究」

**現場から**：ホームレス支援/外国人支援/無料低額老健/研究  
会による「提言」の解説/意見交換・討論・行動計画



**無料低額診療事業のすべて** 役割・実践・実務  
吉永純・原昌平・奥村晴彦 編著  
近畿無料低額診療事業研究会  
A5判280頁  
2600円+税

無料低額診療事業の意義や役割、  
制度、実績、現場の実際  
その全体像をまとめた「決定版」！

「無料低額診療事業」  
「ホームレスワーカー」  
「生活困窮者」  
「生活困窮者」  
「生活困窮者」

現場の実践をまとめた「決定版」！  
貧困格差が広がる中で、医療が受けられない人にとって、  
強い味方の「無料低額診療事業」。医療費の窓口負担を免  
除・減額のみならず、当事者に寄り添い生活問題を共に  
解決する「ソーシャルワーカー」の支援付き福祉医療制度

主催：近畿無料低額診療事業研究会(代表 吉永純・花園大学教授) 参加費：800円(当日支払い)  
問い合わせ：TEL.075-813-5901 京都保健会事務局 TEL.090-9044-5604 原昌平(ジャーナリスト)



# 作業所での仕事をがんばりたい! 障がい者とボランティアのための成人のつどい

1月19日、大阪市の西区民センターで、「障がい者とボランティアのための成人のつどい」が開催されました。今年で37回目となるつどいには、19人の成人の方とご家族、卒業した特別支援学校の先生たちが参加し、みんなであらたな門出をお祝いしました。



代表のあいさつをされたのは、田中蓮人さんとそのお母さん。お母さんは20年間をふり返り、「たいへんだったときは、この暗いトンネルからいつになったら抜けられるのかと泣いていた日々もありました。だけど、いま思うと、私が勝手にトンネルの中だと思い込んでいただけで、本当はいろんな景色があったし、支えてくれる人がたくさんいたなと思います」と涙ぐみながら話されました。



そして、「顔をあげてまわりを見たら、助けてくれる人や、一緒にがんばろうと言ってくれるなかまがたくさんいました。これからもたいへんなこともあると思いますが、たいへんなときは困っていると声を出したり、頼ったりしながら、大きな気持ちでこれからも子育てをがんばりたいと思います」と話されました。

蓮人さんも、「いっぱい作業所でお仕事がんばります！」と笑顔で抱負を語られました。久しぶりに教え子に再会した特別支援学校の先生方も、成人のみなさんに「これからも自分らしく生きてください」とエールを送りました。



37年前、大阪障害児者を守る会のお母さんが、「地域の成人式には参加しにくいけど、20年がんばって生きてきて、子育てしてきたので、成人式をさせてあげたい」と手づくりではじまった「成人のつどい」。いまは、きょうされん大阪支部や大阪府立障害児学校教職員組合、障害者（児）を守る全大阪連絡協議会などが参加する実行委員会形式で、大阪府下4か所で開催しています。

いっばうで、個人情報保護など、つどいの案内をひろげていくことがむずかしくなっている状況もあり、実行委員会やお母さんたちの口伝え、声かけに頼らざるを得ないなどの課題もあります。

お祝いの花束を手会場をあとにするときには、みなさんとても誇らしげな顔をされていました。これまでの20年をしっかりと生きてきたことを誇りに、これからの人生に夢と希望をもって歩いていく、ひとつの大きな区切りになっているのだと思います。

(写真・文 申 佳弥)

## 【ひろばトーク】

さまざまな人との出会いのなかで育てられて 遠地 昭典 6

## ●特集● 地域福祉の最前線！ 民生委員活動で住民をつなぐ

基礎構造改革で変容した民生委員活動	原 吉則	11
地域をつないでいく役割が大事	池山 久子	15
地域によって変わる民生委員の活動	谷口 純子	18
【討論】 民生委員が地域を変える（コーディネーター：志藤修史）		22

## ●サブ特集● 第24回合宿研究会を開催しました！

なぜ国は今、「全世代型社会保障」を推し進めるのか	石倉 康次	32
福祉労働者の処遇改善と、人権保障としての 社会福祉を守る運動の課題	清水 俊朗	34
「若者支援」は個人化・責任化に抵抗できるか	岡部 茜	36
介護保険制度の20年は高齢者福祉に何をもたらしたか	井上ひろみ	38
社会福祉法人全国組織結成の意義と役割	茨木 範宏	40
95年勧告に向き合って	浜岡 政好	42

## ●トピックス●

第7回釜ヶ崎のまち短期留学 企画中心！		46
社会保障をもうけの対象に？！ ——「全世代型社会保障」のねらい	芝田 英昭	48
「津久井やまゆり園」事件に寄せて ——ノーマライゼーションの視点から	鈴木 勉	54

## ●連載●

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 相談室の窓から	水野阿修羅	62
進路選択を自分づくりのよりよい機会に（その2）	青木 道忠	64
育つ風景 3・11で流された福島県いわきの保育園の再開	清水 玲子	66
ひととしてあたりまえに生きたい 大阪聴力障害者協会会長として（1）	清田 廣	68
映画案内 『レ・ミゼラブル』	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて あいりん総合センター前の路上死	生田 武志	72
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート メガネは顔の一部です、じゃ！	ラッキー植松	74
ホームレスから日本をみれば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

## 福祉のひろば

2020年3月号

## ●表紙の絵● 神門やす子



みんなのポスト 60 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81

●グラビア● 作業所で仕事をがんばりたい！  
障がい者とボランティアのための成人式のつどい

# さまざまな人との出会いのなかで育てられて

共生ホームひまわりの家代表 遠地昭典さん

住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし、最期は病院ではなく自宅で迎えたい。そんなねがいを込めて「共生ホームひまわりの家」を開設しました。これまでに二二人の方がひまわりの家に入居され、五人の方がひまわりの家で最期を迎えられました。それぞれ長い人生を生きぬいてきて、最後にひまわりの家で生活を共にし、看取りをさせていただいたことは、私たちに大きな励ましと感動を与えてくれました。

いっぽうで、やむを得ず入院されて病院で亡くなられた方も数名おられ、在宅での看取りのむずかしさを思い知らされます。また、ひまわりの家の理念をご家族と共有できず、退居された方もいます。

入居して四年を迎えていたある方は、ひまわりの家での生活をよろこんで、最後まで住みつづけたいとねがっていました。しかし、自分の部屋でベッドから滑り落ちて骨折し、入院されました。このことについて、ご家族がひまわりの家の介護、およびケアについて疑問をもたれ、話し合いました。ひまわりの家は「施設」ではなく、「自分の家」で生活することを支援して、共に生きることがひまわりの家の「共生ケア」であること、上からの「介護」ではなく、本人の意志を大切に、寄り添って「お世話」をしていることを話しました。「安全」を名目に本人の意志を無視して介護をしないことを話し合いましたが、家族は「安全な介護」を求め、グループホームを選択しました。

入居されて八年になる方は、いろいろな病気を抱え、排泄も尿はバルーンをつけ、重い「心不全」のため寝たきりの状態での退院でした。家族は「施設」を望んでいましたが、本人の強い要望でひまわりの家に帰ってこられました。いつ急変してもおかしくない状態だと言われながらの退院です。

週一回の往診、週三回の訪問看護、週三回のヘルパー訪問を受けて、週二回の訪問入浴を楽しみに生活しています。「ひまわりの家に帰ってくると安心する」「帰れてよかったです」と笑顔で話してくれます。その笑顔に癒やされます。退院直後は寝たきりの状態で



## えんち あきふみ

1942年高知県生まれ。1961年、大阪府民生部保険課に採用され、府下の社会保険事務所に勤務。1999年、義母の介護に専念するため退職。2000年、ボランティア活動で「ひまわりの家」（ふれあいサロン）を開設、ひとり暮らしの高齢者居場所づくりをはじめ。その後、デンマークとスウェーデンを訪問し高齢者福祉について学び、2008年、「共生ホームひまわりの家」の建設運動を開始し、2010年に「共生ホームひまわりの家」を開設。代表者として現在に至る。

したが、ひまわりの家に帰ってきて元気になりました。いまでは車いすで一階の食堂まで一人で降りてきて、みんなと食事をしています。

しかし、心不全の状態はだんだん悪くなってきた、横になっているときにも「疲れる」と訴えることが多くなりました。「そろそろ私もダメかね。はやくお迎えがきてほしい……」「そう急ぐこともないよ。ひまわりのおいしいごはんをもっと食べてからにしては」「ひまわりのごはんは本当においしいね」。本人は何となく最期を感じておられるようです。

看取りをさせていただいた最年長の方は、一〇一歳で亡くなった方です。九八歳で入居され、入居後六か月で「大動脈瘤」を患い入院されました。退院後は老健施設に入所されましたが、老健施設を退所するとき、もう一度ひまわりの家に入居したいとの本人と家族の意向で再入居されました。

彼女は一九一二年生まれで、高等女学校を卒業して二二歳で大阪市西淀川区佃つくだの田箕たみ神社の宮司の長男に嫁ぎました。一女二男にめぐまれるも、一九四四年に夫と宮司の祖父が相次いで他界し、急遽「宮司」の資格を取るため勉学に励み、当時女性としてはめづらしい「正階位せいかい」の資格を取り宮司になり、六〇歳まで勤めました。その傍ら「佃幼稚園」を設立するなど、地域社会に貢献しました。ひまわりの家に入居後は、病気の再発もなくおだやかに過ごされていきました。その日は朝食時、いつもと変わらずあいさつをして食事をはじめたとき、意識がもうろうとなり、部屋に帰ってベッドに横になるも意識はなくなり、だんだんと呼吸も静かになり、脈もとれなくなつて息を引き取られました。

はじめて「看取り」をした若いスタッフは、その姿に感動したようです。共生ホームひまわりの家の一〇年間、さまざまな人と出会い、生活のなかで感動が生まれ、育てられています。

## 個人もつながりも大切にできる地域へ



今号の特集は、民生委員さんによる座談会です。民生委員は、地域の高齢者や障害者、ひとり親世帯などの見守りや、生活上の困りごとの相談に応じる、無報酬のボランティアです。本来、地域福祉の向上に責任をもつべき役所が、その公的責任を後退させていくにつほう、高齢化や孤立化がすすむなかで、民生委員の役割や求められるものが、どんどん大きくなっています。

座談会に登場いただいた三人の民生委員のみなさんは、地域をつなぎ、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる地域を築いていくために、さまざまな活動にとりまわっています。いっぽう、活動の悩みとして、個人情報保護で活動に必要な情報が受け取れなかったり、住民自身が地域とのつながりを拒否したり自ら断ってしまう人がいることを挙げています。

昨年七月号の特集でシングルマザーの座談会をした際、「地域の人に生活保護を受給していることを知られたくないのも地域の人とはつながりたくない」と話され、地域の外でつながれることを大切にする大阪シンママ応援団の活動をとりあげました。今号の座談会でも、訪問活動をする際には、絶対に玄関で民生委員であることを言わないようにしたり、自然に訪問するよう細心の注意をはらっていることが話されています。個人情報やプライバシーの保護と地域福祉の充実は相容れないのではないかと思うほどバランスがむず

かしい問題ですが、これからの地域福祉を考えていくうえで、避けては通れない大きなキーワードです。

座談会のなかで民生委員の原さんが、民生委員は推薦制なので、この人に民生委員になってもらいたいという人を説得できるまで地域自体も成長しなければいけない、と話されています。その地域の民生委員の質や専門性は、その地域の地域福祉のレベルと連動しているということです。

今号の連載「育つ風景」では、東日本大震災で被災したおかあさんが、3・11のあとからずっと、緊急事態のときにおとなとしてもっと何かできるかもしれないと地域の子どもの顔と名前を全部覚えるようにしたり、保育所や学校の役員も積極的にかかわるようにしている、と話されたことを紹介しています。

このおかあさんの言葉には、地域福祉を考えるとときのヒントがたくさん詰まっていると思います。まずは顔見知りになること。知らない人ではなく、住民同士がそれぞれに「知っている人」になること。もう一つは、地域に「主体的に」かわるということです。近年、「住みたいまちランキング」や「住みやすいまちランキング」がメディアなどでも注目を集めています。上位に選ばれる理由は、都心部へのアクセスや商業施設の開発か、子育て世帯を呼び込む行政主導型の政策などです。住みよいまちを選択するのではなく、いま住んでいるまちを住みやすくするという視点で、主体的に地域にかかわっていくことが大切なのだと思います。かくいう私も、自分が住む地域の活動には、いつさい関わっていません……自戒も込めて、地域福祉とはなにか、その役割と可能性をあらためて考えたいと思います。

(編集主任)